

グローバル化社会への対応を目指すこれからの大学教育とは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今日は、文部科学省が提唱している今後の教育改革がどうなっているのかということをお話したいと思います。
3. 今、下村博文先生が文部科学省の大臣です。私は学習塾を経営していますが、下村先生も大学卒業後にしばらくの間学習塾をなさっておられましたので、非常に親しくしていただきました。ですから、その当時の下村先生のごことはよく存じ上げています。
4. 下村先生は、小学校3年生のときにお父さんを交通事故で亡くされて、非常にご苦労なさいました。生活も非常に大変だったようです。そのため、自分と同じように生活することや学習することが大変な子どもたちを1人でもなくそうと思い、小学校高学年、中学生の頃から、自分は将来文部大臣になりたいと思い、文部大臣を目指した方です。群馬県の中学校を卒業されて、入学するのが非常に難しい高崎高校に進学なさいました。群馬県有数の難関校である高崎高校に入学するという進路をとられたのも、文部大臣になりたいという強い意志があったからです。
5. さらに、高崎高校卒業後は早稲田大学教育学部に進学し、在学中も文部大臣になりたいと思い続けて新聞配達をしながら大学生活を送られました。子どもたちに教えることが好きで、大学を卒業する頃に学習塾を始めますと、たくさんのお子どろたちが集まり、東京都の板橋区で学習塾「博文進学教室」を開きました。そして、学習塾をやりながら東京都の都議会議員になられました。都議会議員になられたときも、文部大臣になりたいという思いがありました。その後、衆議院議員選挙に挑戦し、国会議員になりました。そのときにも文部大臣になりたいという強い思いがありました。このように、御自分は文部大臣になるために生まれてきたのだというくらい熱心な文部科学大臣で、安倍内閣が続く限り文部科学大臣以外はやらなくてもよいと断言しています。そのくらい、教育改革について本当に熱心です。

6. そのような方が自分の夢、つまり立派な子どもたちを育てたいという思いから、人材を強化するために教育を改革しなければならないと考え、大学改革・高校改革・中学校改革・小学校改革・幼児保育改革・生涯教育についての熱心な教育改革案を皆さんと一緒に作っていらっしゃいます。また、そのような思いがあって、文部科学大臣自らが教育再生実行会議の担当大臣になっているということです。そして、御自分が教育改革の最前線に立つのだということで安倍首相と緊密な連絡を取りながら作っているのが、今回の教育に関する政策、国の動きと考えです。その中で一番特色あるのが、大学入試改革と大学教育改革です。

7. これからの大学教育は何のためにあるのか。今までは、高度な人材を育成し、国や地域社会の発展に寄与するためであると言われてきました。現代ではこれに加えて自国だけではなく世界の発展に寄与することと、一度社会に出た人がもう一度学び直すことであると考えられています。そこで、大学改革の内容として大学自身の大胆なグローバル化とシステム改革を通じて、大学も日本国内だけでなく国外からも優秀な人材を集めていきたいと考えています。具体的に言いますと、国立大学の潜在力を最大限に引き出して、国の産業競争力強化に役立てるということです。もちろん、私立大学は民間ですので自由自在にがんばる。文部科学省としては、国の予算を多く用いている国立大学も国立大学法人として私立大学のように自由に競争して世界や日本、地域社会での大学として役割を果たしてもらいたいと考えているようです。

8. 今まで以上に国立大学法人の潜在力を最大限に引き出して、地域社会における役割を果たしてもらいたい、そのことによって国の産業競争力強化を実現したい。そのためには、外国人研究者をもっともっと積極的に採用したり、海外の大学の優れた人材を研究室単位で招聘したりなど、今の制度にとらわれないグローバル化をしたいということです。

9. さらに言いますと、産業競争力に直結するのが理工系、つまり理学部や工学部の方、特にエンジニアの方です。そこで、研究職の方や理工系の方などの人材を戦略的に育成して、イノベーション(刷新)の能力、働きを強めたい。このような国立大学法人の改革プランをすぐにでも実行したいということです。学部や学科、大学の枠を越えた資源配分、組織の再編成を行って、国立大学法人を中心に新しい大学をつくりたいということのようです。もちろん私立大学も今まで以上に頑張る。文部科学省が管轄しているのが国立大学法人ですので、まずは国立大学法人の国際競争力を強めるために改革を実行したいという強い考えを持っているように私には感じられます。

10. さらに、文部科学大臣の下村先生は、グローバル人材を強化するための小学校から専門職大学院に至るまでの教育ロードマップ、この時期には、このようなことを行うという道順を明らかにしたいということです。その中でも、特にすべての段階における英語教育に対して強い関心を持ってい

らっしゃいます。小学校から大学院まで、すべての段階での英語教育を強化したい。その改革をするために、まずは英語教育の担い手である英語教員自身の語学力と英語の指導力を大幅に改善したいとしています。そして、児童・生徒・学生たちには、英語に触れる機会や時間をもっともっと増やしてほしい。さらには、英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)をバランスよく身に付け、英語によるコミュニケーション能力を育成する新しい学びへの授業革新を目指す。英語で発表する力、つまり英語によるプレゼンテーション能力や対話する力・討論する力、英語で考える力や英語で表現する力を育成したい。そして、そのための英語の授業をしたいとお考えのようです。また、英語に限らず小学校でも少人数学級や習熟度別学級をできる限り行っていきたい。コンピュータを学校教育の中でもっと活用していきたい。小学校から高校まで理科系の教育にもっと力を入れていきたいということもお考えです。

高校では、国際化に向けてさらに力を付けて、国際的な素養を身に付けたグローバルリーダーを養成する高校をたくさんつくり、海外留学を目指す日本人を増やしたいということです。

11. このようにして、学校が輩出する人材と社会が求める人材のミスマッチを解消したい。産業界と学校の対話と協働により、グローバル人材、イノベーション(刷新)を実現することのできる人材を国や地域社会が戦略的に育成したいというのがグローバル人材強化のための教育ロードマップです。

12. 以上のようなことによって、日本の大学のレベルを世界トップレベルにしていきたい。また、一度社会に出た人々の学び直しの機会を大学を中心にもっとつくりたい。これらの実現に向け、政府は文部科学大臣の下村博文先生が中心となって教育再生実行会議などの会を通じて取り組んでいます。

おそらく今年の夏以降、具体的な案がたくさん出てきます。これからも、栃木県、群馬県、茨城県の北関東地域でこの CRT ラジオ放送の「開倫塾の時間」をお聴きの皆様とご一緒に考えていきたいと思えます。どうか注目をしていただきたいと思います。

— 2013年9月16日加筆・訂正 林明夫 —